

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日, 令和2年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般住宅の中に立地しており静かな環境にあり、建物の周りも花壇や野菜を育てることで自宅での生活に近い環境作り心掛けています。今年コロナ禍の状況でご家族との面会や外出も自粛を強いられているが、普段はご家族や知り合いの方などがいつでも気軽に来て頂き、職員とも何気ない会話を楽しんで頂けるような場所となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosvoCd=0192902138-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市の中心部から7°程度離れた住宅街に立地しており、末広町という古くからの住宅街は近隣にスーパーや小学校が並ぶという利便性に富んだ、戸建の多い静かな環境にある。当事業所の横には母体法人の介護付有料老人ホームが隣接し、共に行事等を協力して実施するなど、相互の利用者の安全や地域交流に役立っている。また母体法人は有料老人ホーム以外にも地域密着多機能型等々の幾多の事業を展開し、長年にわたり高齢者だけでなく障害者分野の福祉にも寄与している。事業所は2階建て各階に1ユニットが入り計18人の利用者が入居している。当事業所の優秀な点は、看取り介護への取り組みを挙げたい。職員は終末期の介護を研修し、医療職からのアドバイスも積極的に受け取り、安心してもらえる看取り介護に取り組んでいる。利用者のほとんどが当事業所の介護員に手を握られて目を閉じたいと願っており、毎年1~2名の看取りを実施している。また職員は4項目の理念「素直、謙虚、感謝、地域共生」を介護の指針とし、利用者本位を中心に日々のケアに取り組み、具体的には利用者の日々の様子を担当の職員が毎月手紙形式で写真を同封し知らせており、安心感と信頼性が家族と事業所を結び付けている。医療体制も本人本位を第1とし、利用者や家族の希望する医療機関への受診を優先し、通院時には職員が同行して安全を期している。状況に応じて訪問診療や訪問看護も活用して、万全な体制で日々一人ひとりの介護に臨んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation data (No. 56-62).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に入るところに掲げた4つの理念を掲示することでお互いが共有し、実践に向けて努力出来るようにしている。	4項目の「素直、謙虚、感謝、地域共生」を理念として事務所内に掲示している。わかりやすい理念であり、利用者や家族、職員に示し、介護に対する心構えとし実践に臨み、日々活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で交流の場が持てていないが毎年地域の行事などに参加したり、近隣の散歩などで交流を持つようにしている。	開設から十数年が経過し、地域の人々との交流もごく自然に行われている。町内会とは祭りやイベントで直接的に触れ合う機会を持っており、日常的な関係が維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や、懇談、運営推進会議などで施設の取り組みや現状を発信し、支援、協力を貰えるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で、施設での介護の状況、事故報告、身体拘束への取り組みなどを報告し、意見やアドバイスを貰うことでサービスの向上に生かすように努めている。	運営推進会議は地域や包括、家族代表の参加を得て2ヶ月毎に定期開催され、議事内容も行事報告に留まらず、事故や拘束についても論議され、サービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設利用者の状況報告や、施設のサービスの取り組みなどの報告、また保護の方への協力、連携を密に取りながら関係を築いていくように努力している。	市や包括の各種会議には出席し、情報交換を行っており、介護保険の更新や区分変更時も窓口に赴き、各種の相談等により関係性の維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あらゆる身体拘束もしないことを前提にサービスに取り組んでいるが、どうしても必要と判断した時はご家族との話し合いを持ち、同意を得てから再度職員間では拘束を出来るだけ早く解除して行く方向で支援していくようにしている。	身体拘束や抑制、虐待はしない事を前提に介護に臨んでいるが、30年の通知に基づき身体拘束廃止の指針を作成し、管理者と職員で構成する拘束廃止委員会を2ヶ月ごとに開催している。拘束や抑制の問題点を話し合い、内容について直近の会議で職員に周知し、拘束の意味や安全について前向きに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や事業所内での研修において職員一人一人が虐待に対する認識をしっかりと持ち、虐待防止に取り組みながら日々の介護に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度を研修などで学ぶことで、ご家族のいない方、疎遠になっている方の状況を踏まえ、成年後見制度を利用できる様包括などと連携しながら支援できるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項の説明をすることでご家族の理解を頂き、さらに不安や疑問点を話し合いながら納得のいく形で一緒に解決できるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族や本人からの要望や意見は全職員で共有し、話し合いながら次に繋がるように努めている。	毎月利用者の様子を記したお手紙を送って情報を伝えており、意見や苦情については玄関の意見書、また来所時の話し合いで聞き取っている。見直せる事は職員間で共有し、改善に向けて努めている。	理念の実践を含め本人本位の介護サービスに取り組んでおり敬意を表したい。今後は家族宛のお手紙の充実に努め、より上質なサービスに繋がるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングで意見提案を話し合ったり日常でも提案などについて話し合える状況を作れるように努めている。	ミーティングや全体会議を通して職員の意見を聞く場を作っており、介護の方法や利用者の接し方等、工夫や提案が見られ、実際のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況、努力などを把握しながらやりがいが持てる職場環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりがよりスキルアップして行けるように職場内外の研修などに参加してもらい、職場で活かしていけるよう、またその知識を共有出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろいろな分野での勉強会に参加したり、交流を持ちながら意見交換をすることで、新たな取り組みや知識に気付きサービス向上へ繋がるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用前に本人の要望や不安をしっかり受け止め、少しでも安心して生活を送れるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にはどんな小さな不安や、要望も話していただく事をお願いし、その不安などを共有しながら少しずつでも解決できるように意見を交換しながら関係性を築いて行くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要なことをサービス提供の段階で見極め、医療面も含め対応していくように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の日々の暮らしの様子、、思いを共有しながら関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いををご家族と共に職員も共有することで絆を深めながら、同じ思いで支えて行けるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流のある友人、親戚などの面会、また美容室などに出かけることで関係性を継続して行けるように努めている。	今までの生活様式を変えない様に生活支援に力点を置き、馴染みのある家具の使用や、家族関係も断ち切られないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが心地よく会話が出来たり、一緒にゲームなどでコミュニケーションが取れるように職員がきっかけを提供しながら良い状況でお互いを理解し、支えあえる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人やご家族の相談に答えているように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とご家族の思いも含めての希望、意向を把握し、永く生活を共に出来るよう最終段階を含めての話しもして行けるように努めている。	日々の生活に寄り添いながら、利用者の思いや意向を把握し、穏やかな心で過ごすことを中心に据えて支援している。また本人の最終段階での思いも聞き取り記録するよう、時期や方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活での一番の楽しみ等を本人、ご家族から聞き取り、把握することでプランに反映しながら馴染みの暮らし方が少しでも継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身の状況の変化を記録観察することで現状を把握し、対応できるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしを提供できるように3か月ごとのモニタリング、6か月ごとのプラン作成、また変化のあった時にはその都度カンファレンスを開き、本人、ご家族の納得の行くサービスの提供を心掛けている。	介護日誌に介護計画を記号で落とし込み、日々介護計画が反映できるように努め、6ヶ月毎に更新しながら短期目標の達成に努めている。病変が生じた際は、カンファレンスを行って現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケア、気づきを個々の介護記録に残し、職員が記録を共有することでまた新たなケアの工夫などを実践に繋げながら計画の見直しに反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、ご家族の状況、要望などに合わせ、施設で出来る範囲の中で、出来るだけ答えられるよう、柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動や、防災対応などを把握し、安全で心豊かな暮らしを楽しんでもらえる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を最優先し、病院、主治医との信頼関係を持ちながら受診を継続し、また本人が受診が困難な状況の時には訪問診療の選択肢もあることを説明しながら支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を優先し、通院や往診、訪問看護も検討しながら安心感のある医療を提供している。終末期は協力医の診療を中心に、看護師の指示や協力を得ながら適切な医療になるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化や状況を職員、看護師は常に共有し、看護師からの適切な		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には相談室を通して情報交換しながら、経過報告等を受け、早期退院に向けて主治医との連携を取りながら関係作りを努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期に対する取り組みの説明をし、ご家族、本人との話し合いを持ちながら、方向性や希望を理解、共有し事業所の出来る事、思いを伝えながら支援できるように取り組んでいる。	看取りについては入居時に指針を文書で説明し同意を得ている。本人や家族の希望があれば、かかりつけ医の協力により最後まで支援を続ける体制が整っている。毎年2件前後の看取り介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを準備し、職員はどの状況にあっても対応出来るように研修などで対応、実践力を身に付けるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難、防災訓練をしながらあらゆる災害にも対応出来るように方法や情報を共有し、推進会議などを通し、地域との連携を取りながら協力体制が得られるように努力している。	年に2回、消防署の指導のもと、地域住民へ参加を呼びかけながら避難訓練を実施している。備品についても冬季の暖房機から食料、おむつ類まで用意されており、利用者の安全確保へ備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、日々のケアで本人を傷付けたりすることのないように声掛けなどに配慮しながら対応している。	利用者への呼びかけや支援する態度について、緊張感をもって接するように努め、上から視線や怠慢、傲慢な介護にならない様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを話したい、訴えたい様子を見逃さず、思いを引き出しながらどうすべきかを一緒に考え、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日はゲームがしたい、今日は休んでいたいなど利用者一人ひとりのペースに合わせ出来る所の希望に沿って支援して行けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や清潔な衣類を本人の希望も聞きながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は難しいがテーブル拭きなどのお手伝いや、食事を職員と一緒に摂りながら会話をし、食事を楽しく出来るように支援している。	献立や食事は業者から配達されたものを利用し、利用者の好みに手を加えながら、旬の果実を添えたりし、また食卓は職員も同席しながら楽しい食事を目指している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分の摂取量を記録することで1日の摂取量を把握し、一人ひとりの健康状態や栄養バランスにしっかりと目を向けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを介助も含めてしてもらい、その都度口腔の状態も確認している。また1日1回の義歯の洗浄もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状況に合わせて自立している方には声掛けをし、普段はトイレに行けない方にも排便に関してはトイレでの自然排便を促すなど自立に向けての支援をしている。	排泄はトイレでを基本とし、各人の特性・サインを理解共有し適切な誘導に努め、本人が嫌がったり負担にならない排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況をチェックすることで、水分摂取の働きかけや、体を動かすなどの声掛けをしながら便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿っての入浴は難しいが、時間やタイミングなどは本人に確認しながら気持ちよく入浴してもらえる様に支援している。また失禁などで身体が汚れてしまった時などはその都度シャワーを利用してもらっている。	入浴日は週に2回と設定しているが、必要に応じて、また希望によりお風呂を用意して個人に見合った入浴支援に努めている。拒否者には無理強いすることなく、時間や介護者に変化をつけ、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や生活状況に応じ、その時々合わせた夜間の睡眠や昼間の休息を気持ちよく取って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は内容、用法などを職員がしっかりと理解、把握し、薬の変更時も職員間で周知することで症状の変化確認等に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の手作業でのお手伝いや好きな飲み物やおやつ提供、また体操やレクリエーションへの参加などで楽しみを持ちながら日々を送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりがその日に希望することにはすべてには答えられないが、ドライブや買い物など気分転換出来るように努め、ご家族との夕食などにも出かけられるように支援している。	季節のドライブ年間計画に基づいて実施し、また普段からの外出も買い物等、気楽に出かけられるように努めている。また散歩時はご近所さんと気軽に会話を楽しむなど、日常的に行えるように外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の難しい方が多く、ご家族から預かっているお金で本人の希望するものを買ったり、一緒に買い物に行き支払いをしてもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でのやり取りはなかなか出来ないが、本人から電話をかけご家族の声を聴いたり、ご家族に電話をかけてもらうことで気持ちが穏やかになれるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースでは環境の急な変化のない様に、また花壇の花や野菜の収穫などで季節感を感じてもらいながら周りの人との会話にも繋がるように工夫している。	居間兼食堂は広いスペースが確保され、南西に向けた大きなベランダが季節の移ろいを日々映し出し、温度や湿度も適切に守られ、華美な装飾もない、自然で落ち着いた居心地の良さを感じる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にも一人で過ごしたり、本を観たりと思い思いの時間を過ごせるように、ソファの利用やテーブルを囲んでの会話などが出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その部屋で過ごすことで落ち着けるようにご家族とも相談しながら、写真や馴染みの物を居室に置いたりし、本人が安心して過ごせるように工夫している。	居室には、長年愛用した家具も見受けられ、家族写真が壁に貼られるなど、生活感のあふれた落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内での車いすの自走や、トイレ、居室の区別がつくようにプレートなどの工夫をして本人の自立、また安全な生活が送れるように支援している。		